

Piromidic acid の臨床的検討

山作房之輔

新潟大学医学部第二内科教室

貝沼知男

新潟労災病院内科

Piromidic acid (PA) はおもにグラム陰性桿菌に作用し、消化管、胆道、尿路に高濃度に分布するので、それらの臓器の感染症に対する効果が期待されている。

私どもは小数例ながら、本剤を尿路、腸管感染症に使用したので、その成績を報告する。

成 績

患者は急性腎盂腎炎4例、慢性腎盂腎炎3例、サルモネラ腸管感染症1例の計8例である(表1)。

急性腎盂腎炎はPA使用前に菌検索を実施しなかつた1例以外はすべて大腸菌感染で、ディスク法によるNAの感受性は(++)であつた。初診時の症状はPA使用后2~4日目には消失し、尿所見、尿中大腸菌も症状と前後して改善あるいは消失し、全例に有効であつた。

慢性腎盂腎炎のうち、症例5は最初尿中から分離した *Klebsiella* がNAに(++)の感受性であつたのでPAを使用していたが、後日PAのディスクを入手後感受性試験を行なつたところPAには感受性を認めず、臨床的にも無効であつた。症例6の *Klebsiella* はNAの感受性が(++)で、PA使用が有効であつた。症例7は11年前に子宮頸癌手術後の照射療法により神経因性膀胱と

なり、約7年前から腎盂腎炎を反復している患者で、NAに(++)の感受性を有する *E. coli* 感染に対してPAは最初有効で、尿中細菌は消失したが、14日目以降再び細菌尿が発現し、NA感受性が消失していた。本例はPA使用中に残尿検査やクリアランス試験などで数回尿道にカテーテル挿入を行なつているので、再発はカテーテルとともにPA耐性菌が外部から侵入した可能性が強い。

急性腸炎例は高熱と中等度の腹痛、頻回な水様性下痢を主訴として入院し、便の培養により *Salmonella* が検出された。PA使用により諸症状は約1週間ですべて改善し、有効であつた。

結 語

Piromidic acid を使用した8例中、急性腎盂腎炎は4例すべて有効、慢性腎盂腎炎は3例中有効1例、使用中の再発1例、無効1例であつた。*Salmonella* 腸管感染症の1例は有効であつた。

1例にPA服用後、軽度の食欲不振を認めたが、服薬を中止することなく続行しえた。その他の副作用は認めなかつた。

表1 PA の臨床成績

症 例 年 齢 性	診 断	原 因 菌	PA			症 状・経 過		効 果	備 考
			1 日 量 (g)	日 数	総 量 (g)	PA開始時	PA開始後		
1 Y. O. 19才 女	急性腎盂腎炎	<i>E. coli</i> NAに++感受性	1.5	6	9	尿中 <i>E. coli</i> >10 ⁵ /ml 体温 39.8°C 白血球 23,000 尿中白血球 多数/視野	(-) (3日目) 平熱 (2日目) 5,100 (6日目) 3~5/視野 (3日目) 1~3/視野 (5日目)	有効	
2 Y. T. 20才 女	急性腎盂腎炎	<i>E. coli</i> NAに++感受性	2	11	22	頻尿・排尿痛・ 残尿感 腰痛 尿中 <i>E. coli</i> >10 ⁵ /ml 尿中白血球 多数/視野	消失 (3日目) 消失 (4日目) (-) (4日目) 4~6/視野 (4日目) 4~6/視野 (11日目) 1~2/視野 (休薬8日目)	有効	

表1 PAの臨床成績(つづき)

症例 年齢 性	診 断	原因菌	PA			症 状・経 過		効果	備 考
			1日量 (g)	日数	総量 (g)	PA開始時	PA開始後		
3 T. S. 55才 女	急性腎盂腎炎	<i>E. coli</i> NAに卍感 受性	3	3	9	尿中 <i>E. coli</i> >10 ⁵ /ml 左腰痛 体温 39°C 白血球数 11,100 尿中白血球 多数/視野	(-) (3日目) 消失 (2日目) 平熱 (2日目) 3~4/視野 (2日目) 1~2/視野 (5日目)	有効	
4 T. S. 65才 女	急性腎盂腎炎	PA使用前 菌検せず	2.25	14	31.5	頻尿 体温 39°C 尿中白血球 多数/視野 尿沈渣鏡検 で菌 (+)	消失 (3日目) 平熱 (3日目) 5~8/視野 (3日目) 1~2/視野 (7日目) 尿培養 (-) (7日目)	有効	PA服用 後軽度の 食欲不振
5 Y. F. 31才 女	慢性腎盂腎炎	<i>Klebsiella</i> NAに卍感 受性 PAに-	3	14	42	尿中 <i>Klebsiella</i> >10 ⁵ /ml 尿中白血球 5~7/視野	10 ² (7日目) >10 ⁵ (14日目) 2~3/視野 (7日目)	無効	
6 T. N. 41才 女	慢性腎盂腎炎	<i>Klebsiella</i> NAに卍感 受性	3	10	30	尿中 <i>Klebsiella</i> >10 ⁵ /ml 尿中白血球 10~20/視野	消失 (3日目) 3~5/視野 (3日目) 0~1/視野 (6日目)	有効	
7 M. S. 57才 女	慢性腎盂腎炎・ 神経因性膀胱	<i>E. coli</i> NAに卍感 受性	2	16	32	頻尿・排尿痛 尿中 <i>E. coli</i> >10 ⁵ /ml 尿中白血球 多数/視野	消失 (4日目) >10 ⁵ (4日目) (-) (9日目) >10 ⁵ (14日目以降) (NAの感受性一と なる) 常に多数/視野	有効 ↓ PA使 用中 に再 発	PA使用 中に数回 尿道にカ テーテル 挿入
8 I. S. 21才 女	急性腸炎	<i>Salmonella</i>	2	7	13	体温 39.4°C 便通 8回 水様便 腹痛中等度	平熱 (3日目) 3回 (5日目) 泥状便 (4日目) 有形便 (7日目) 消失 (4日目)	有効	

CLINICAL EXPERIENCES ON PIROMIDIC ACID

FUSANOSUKE YAMASAKU

The 2nd Department of Internal Medicine, Niigata University School of Medicine

TOMOO KAINUMA

Niigata Rōsai Hospital

In clinical observations of eight cases treated with piromidic acid satisfactory results were obtained in five cases of urinary tract infections, and one of *Salmonella* enteric infection. Bacteriological recurrence was occurred in one patient of chronic pyelonephritis during the use of piromidic acid, and no response was obtained in the other patient of chronic pyelonephritis. No side effect except anorexia in one case was observed.